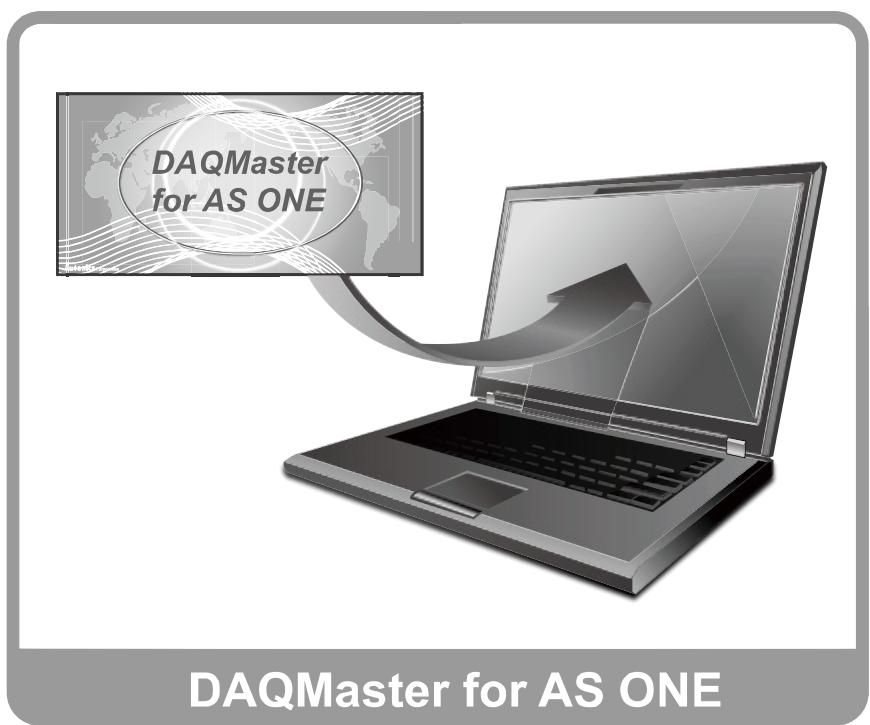


デバイス管理プログラム

DAQMaster for AS ONE

ユーザーマニュアル



DAQMaster for AS ONE

はじめに

弊社の製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

このユーザーマニュアルは製品の案内と正しい使い方が記載されていますので、いつでも見られるところに保管して下さい。

マニュアルのご案内

お使いになる前に、下記の事項をご確認下さい。

- 本ソフトウェア(通信ソフト)はアズワン株式会社の著作物です。
- 本ソフトウェア(通信ソフト)を利用した機器の制御またはデータ処理以外の用途に本ソフトウェアの一部、または全てを無断で編集・複写することは禁じられています。
- 本ソフトウェアは改善のため、予告なしに変更、バージョンアップする場合がありますのでご了承下さい。本ソフトウェアを引用し書籍に刊行する場合、弊社による事前承諾が必要です。または、AS ONE の商標を使用することができません。
- お客様により発生した損害については、弊社は一切責任を負いかねます。

マニュアルの共通記号

記号	説明
 Note	該当する機能に関する補足説明
 Warning	誤った使い方をした場合、死亡または重傷を負う危険性がある内容
 Caution	誤った使い方をした場合、軽微な傷害または製品損傷の可能性がある内容
 Ex.	該当する機能の例
※1	注釈

CD 取扱時の注意事項

- 取扱時には必ず CD ケースに保管して下さい。CD 表面に指紋などで汚れたり表面の表示文字がかすれる恐れがあります。
- CD に揮発性のアルコールや水がかからないようにして下さい。CD 表面の文字が消える恐れがあります。
- CD 表面に文字を記入する際は、ボールペンや先端が硬いペンを使用しないで下さい。CD が損傷する恐れがあります。
- CD は直射日光があたる場所や高温多湿な環境で保管しないで下さい。CD が曲がってしまう恐れがあります。

目次

はじめに	iii
マニュアルのご案内	iv
マニュアルの共通記号	v
CD取扱時の注意事項	vi
目次	vii
1 DAQMaster for AS ONEの概要	9
1.1 概要	9
1.2 特長	10
2 プログラムのインストール	11
2.1 システムの要件	11
2.2 インストールの準備	11
2.3 アンインストール	15
2.4 起動及び終了	15
2.4.1 起動	15
2.4.2 終了	15
2.5 DAQMaster for AS ONEの画面構成	16
2.5.1 ホーム	17
2.5.2 ヘルプ	18
2.5.3 DAQリスト	18
2.5.4 メッセージ	18
2.5.5 メイン画面	18
2.5.6 プロパティ	19
2.6 ランタイム画面ライブラリ	21
2.6.1 データ	22
3 スタート	25
3.1 DAQリスト	25
3.2 DAQリストからランタイム画面ライブラリに追加	26
3.2.1 データ	27
3.3 接続	41
3.4 実行	42
3.5 ログ	43
3.6 ログの読み込み	44
4 プログラムの言語変更	47
4.1 言語を変更	47
5 データ分析	49
5.1 画面の構成	50
5.1.1 メニュー	51
5.1.2 ファイルリスト	52
5.1.3 分析ウィンドウ	52

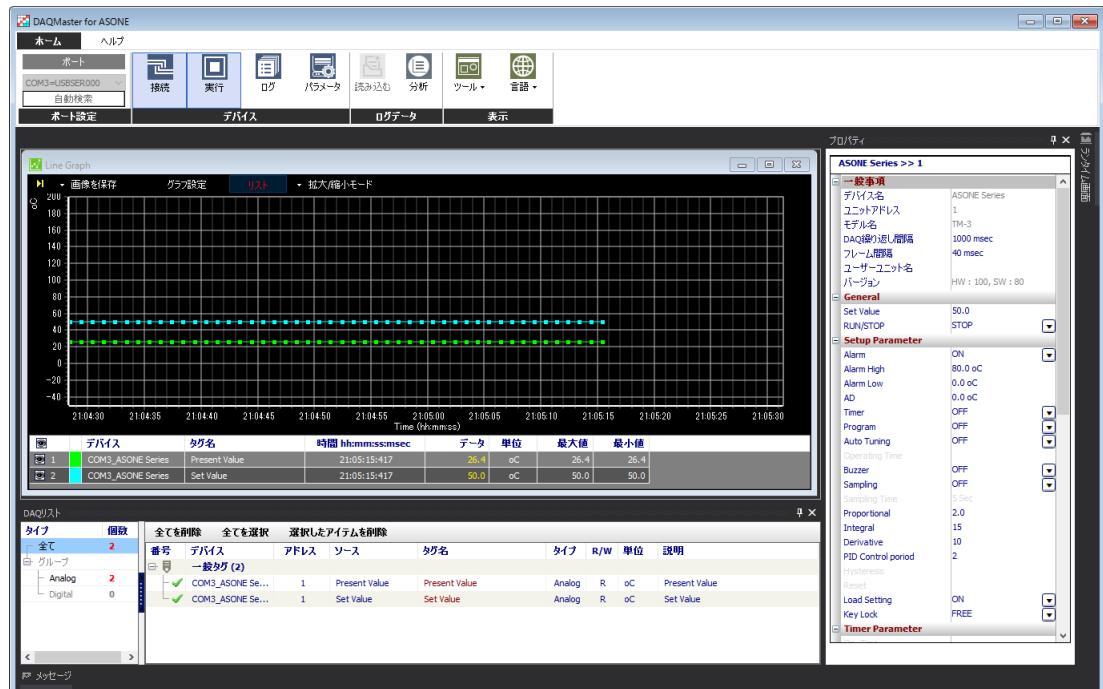
5.1.4	DAQリスト	52
5.1.5	分析スペース	53
5.2	データ分析	55
5.2.1	データを読み込む	55
5.2.2	分析画面を追加	55

1 DAQMaster for AS ONE の概要

1.1 概要

DAQMaster for AS ONE とはデバイス管理プログラムで、弊社の通信サポート製品に適用可能なソフトウェアです。

DAQMaster for AS ONE はグラフィックユーザーインターフェイスを提供し、管理したい通信サポート製品のパラメータ設定及びモニタリングデータを簡単に管理することができるプログラムです。



1.2 特長

DAQMaster for AS ONE の特長は次のとおりです。

(1) 通信機能付きデバイス専用

デバイスをリアルタイムでモニタリングしたり、デバイスのパラメタを設定することができます。

(2) 便利なユーザーインターフェイス

データをモニタリングする画面、プロパティ、プロジェクト画面などをユーザーに合わせて配置できます。

(3) モニタリングのデータログ

モニタリング中にデータをログしてファイルに保存することができます。DAQMaster for AS ONE のデータファイル(*.ddf)と CSV ファイル(*.csv)のいずれか 1 つを選択して保存します。CSV ファイルは、エクセルですぐに読み込むことができます。

(4) データ分析

DAQMaster ソフトウェア上のデータ分析機能を利用して、データファイル(*.ddf)をグリッドやグラフで分析することができます。

グリッド上で*.rtf、*.txt、*.html、*.csv ファイルとして保存できます。

(5) 多言語サポート

韓国語、英語、日本語、中国語簡体を基本的にサポートしています。

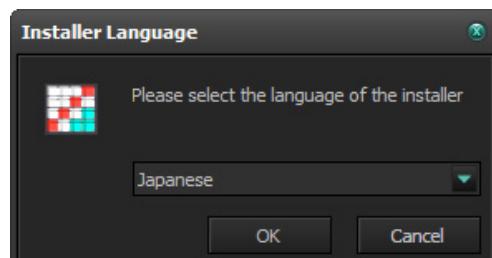
2 プログラムのインストール

2.1 システムの要件

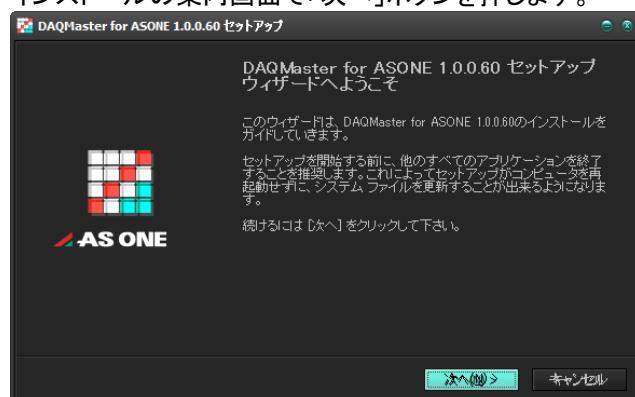
区分	内容
システム	PentiumⅢ以上の IBM PC 互換機
OS	Microsoft Windows XP SP3/Vista/ 7/8/10(32/64 ビット)
メモリ	256MB 以上
ハードディスク	1GB 以上のハードディスク空き容量
VGA	解像度 1024 × 768 以上のディスプレイ
その他	USB ポート

2.2 インストールの準備

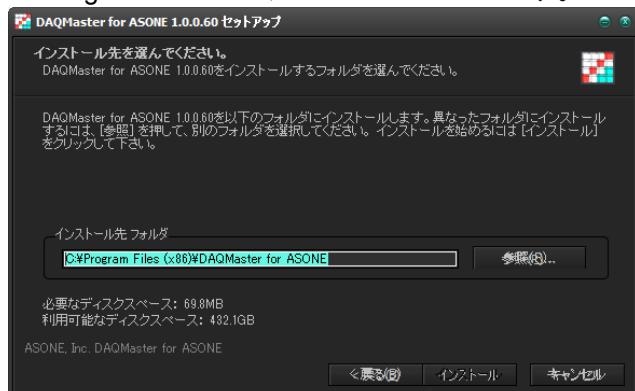
- 1st DAQMaster for AS ONE をインストールする前に、開いているプログラムをすべて閉じて下さい。付属の CD を CD-ROM に入れて下さい。
- 2nd [コンピューター]-[DAQMaster for AS ONE Setup]を実行して下さい。
- 3rd インストールする言語の選択画面が表示されたら、言語を選択し、「OK」ボタンをクリックします。言語は日本語、英語、韓国語、中国語簡体を提供しています。



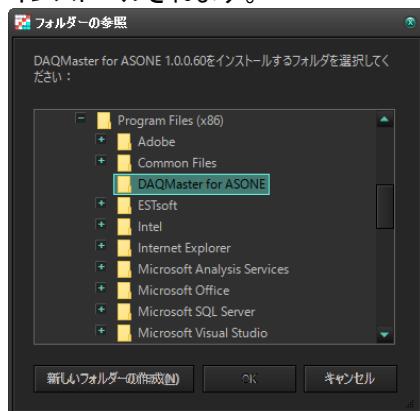
- 4th インストールの案内画面で「次へ」ボタンを押します。



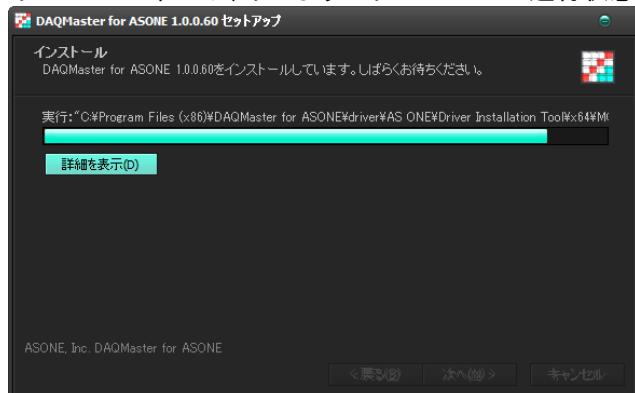
5th インストール先を選択する画面が表示されます。デフォルトのインストール先は C:\Program Files\DAQMaster for ASONE です。



6th デフォルトのパスにインストールする場合は、「インストール」ボタンをクリックしてください。インストール先を変更する場合、「参照」ボタンをクリックし、フォルダの参照画面でインストールするフォルダを指定して下さい。指定してから「OK」をクリックすると、該当のフォルダにインストールされます。



7th インストール中には、下のようにインストールの進行状態を確認することができます。



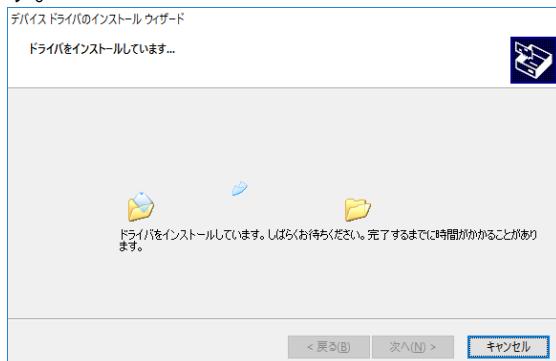
- 8th インストール中、デバイスドライバのインストールウィザードの画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



- 9th ユーザーライセンスの同意画面が表示されたら、「I accept」を選択し、「次へ」をクリックします。



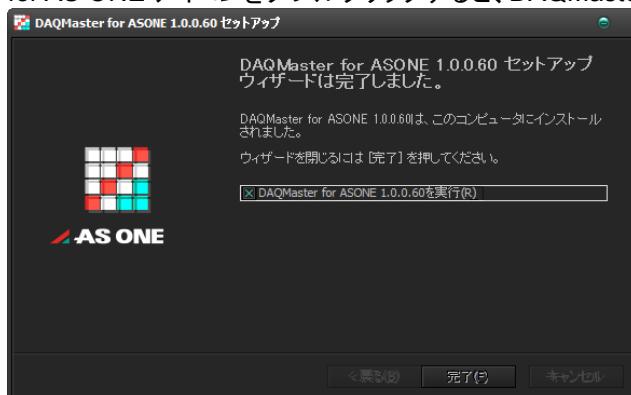
- 10th ドライバのインストール中には、下のようにインストールの進行状態を確認することができます。



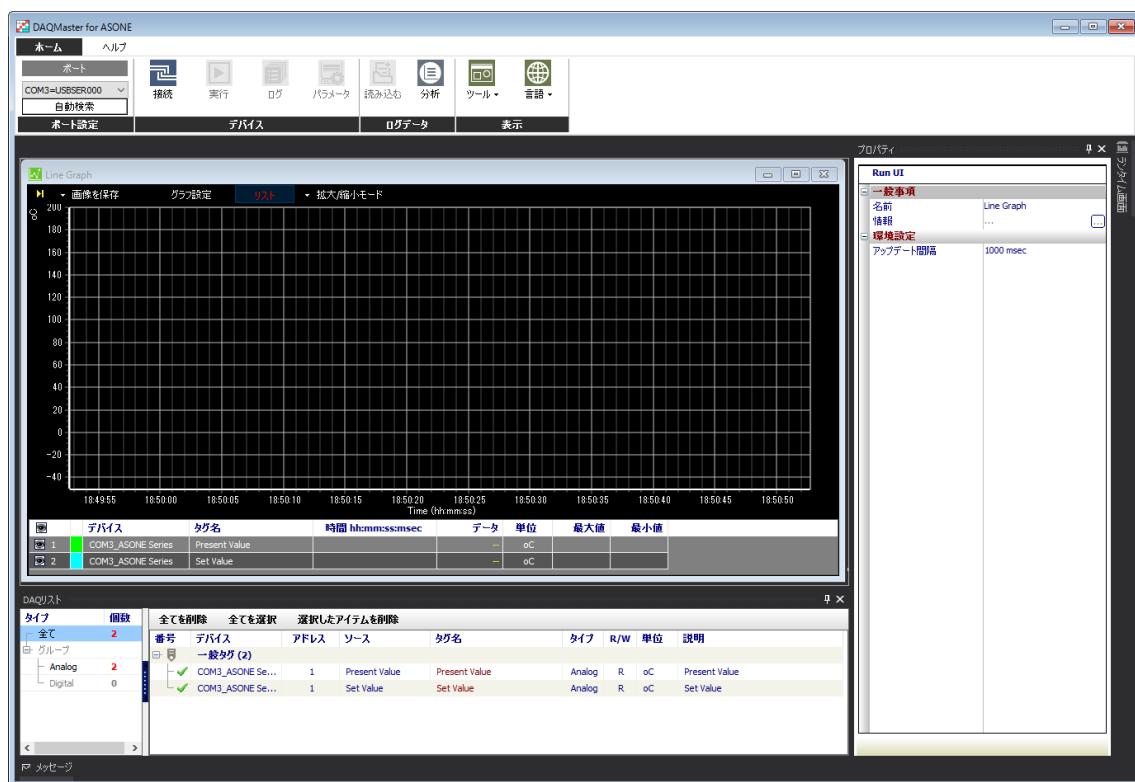
- 11th ドライバのインストールが完了すると、デバイスドライバのインストールウィザードの完了画面が表示されます。「完了」をクリックします。



12thドライバのインストールが完了すると、DAQMaster for AS ONE のインストールが完了します。インストール完了画面のチェックボックスをチェックしておけば、インストール終了と同時に DAQMaster for AS ONE が実行されます。それ以降はデスクトップ上の DAQMaster for AS ONE アイコンをダブルクリックすると、DAQMaster for AS ONE が実行されます。



初期のプログラム実行画面は次のとおりです。



2.3 アンインストール

DAQMaster for AS ONE のアンインストールは「スタート > プログラム > DAQMaster for AS ONE > Uninstall」を選択する方法と、「スタート > コントロールパネル > プログラムと機能 > プログラムのアンインストールまたは変更で DAQMaster for AS ONE」を選択してアンインストールする方法があります。

プログラムのアンインストールを選択すると、選択画面が表示されます。「はい(Y)」をクリックすれば、DAQMaster for AS ONE はシステムから削除されます。

2.4 起動及び終了

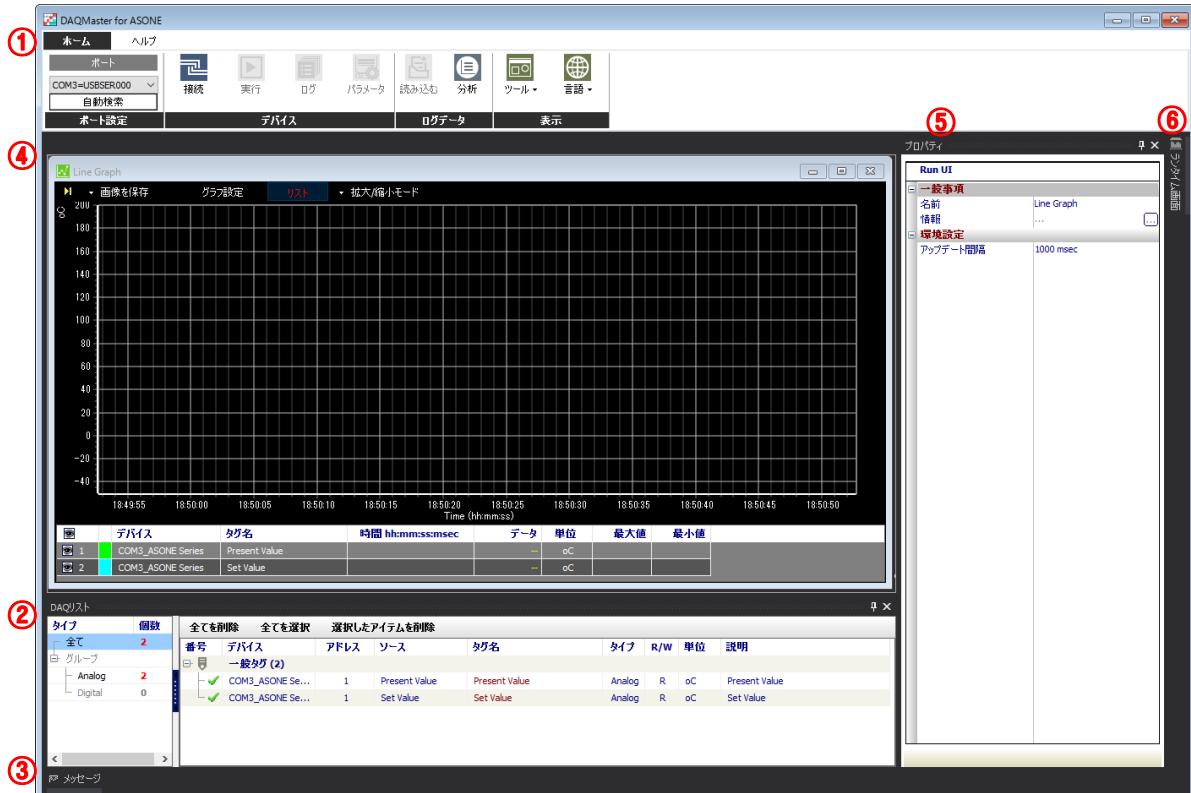
2.4.1 起動

デスクトップで DAQMaster for AS ONE アイコンをダブルクリックするか、または「スタート > プログラム > DAQMaster for AS ONE > DAQMaster for AS ONE」をクリックすると、DAQMaster for AS ONE が実行されます。

2.4.2 終了

実行画面右上の「X」ボタンをクリックすれば、プログラムが終了します。

2.5 DAQMaster for AS ONE の画面構成



プログラムは上のような画面となっており、各項目の基本内容は次のとおりです

番号	項目	内容
1	メニュー	DAQMaster for AS ONE のメニューが項目ごとに構成されています。各メニュー(ホーム、ヘルプ)を選択すると、サブメニューが表示されます。マウスクリックで該当の詳細メニューを実行することができます。
2	DAQ リスト	モニタリングする PV、SV の項目が表示されます。
3	メッセージ	イベントを記録します。通信の接続及び切断、エラー発生項目が表示されます。
4	メイン画面	ランタイム画面から追加した UI 項目ごとが表示される空間です
5	プロパティ	DAQ リストの項目ごとの情報やランタイム画面と接続されたユニットのパラメータが設定できます。
6	ランタイム画面	データをモニタリングするための画面ライブラリです。

2.5.1 ホーム

(1) ポート設定



デバイスと接続された PC のポートを設定します。「自動検索」をクリックすると、自動に検索し、接続します。

(2) デバイス



- 接続: デバイスとの通信を接続または切断します。
- 実行: 接続されたデバイスのデータのモニタリングを実行または実行停止します。
設定した周期により、データを読み取ります。
- ログ: ログを実行すると、ログデータをメモリに臨時保存します。
ログを停止すると、臨時保存したログデータを保存します。
ログデータはデータファイル(*.ddf), CSV ファイル(*.csv)に保存することができます。
- パラメータ: クリック時、「プロパティ」ウィンドウにデバイスのパラメータが表示されます。

(3) ログデータ



ログデータ

- 読み込む: デバイスのログデータを PC に読み込み、データファイル(*.ddf)に保存します。
- 分析: データ分析プログラムを実行し、DAQMaster for AS ONE のデータファイル(*.ddf)を分析します。

(4) 表示



表示

- ツール: プロパティ、DAQ リスト、ランタイム画面、メッセージのウィンドウを開きます。
- 言語: DAQMaster for AS ONE の言語を変更します。

2.5.2 ヘルプ



情報

ヘルプ

- 情報: DAQMaster for AS ONE のバージョンを確認することができます。

2.5.3 DAQ リスト

DAQ リストとは通信する I/O ソースのリストです。

右側には I/O ソースの信号タイプ数が表示されます。また、信号タイプ(Analog、Digital)ごとに右側のリストに再整列されます。

DAQリスト		全てを削除 全てを選択 選択したアイテムを削除								
タイプ	個数	番号	デバイス	アドレス	ソース	タグ名	タイプ	R/W	単位	説明
全て	2									
グループ										
Analog	2									
Digital	0									
< >										

一般タグ (2)

- COM3_ASONE Se... Present Value Present Value Analog R oC Present Value
- COM3_ASONE Se... Set Value Set Value Analog R oC Set Value



実行状態では、DAQ リストの項目をランタイム画面に追加することができません。

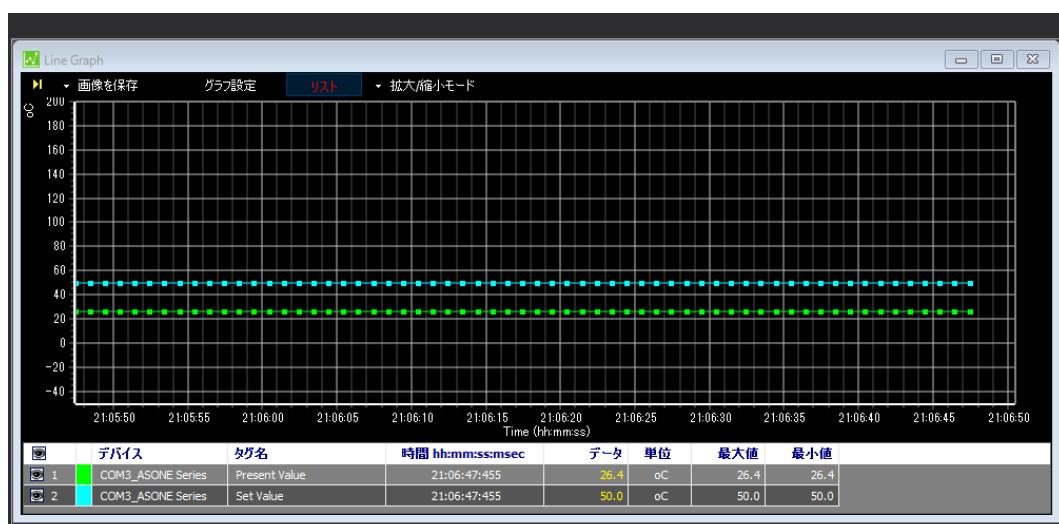
2.5.4 メッセージ

プログラム実行中に発生したイベントを記録します。

例) 通信状態(通信開始/停止及びエラー)、ログ状態(ログ開始/停止)など

2.5.5 メイン画面

ランタイム画面から追加した UI 画面(データ: Grid、Multi Panel、Panel、Line Graph、Bar Graph)を表示します。

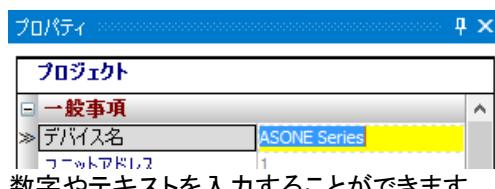


2.5.6 プロパティ

プロパティ画面で DAQ リストの項目を確認、変更することができます。

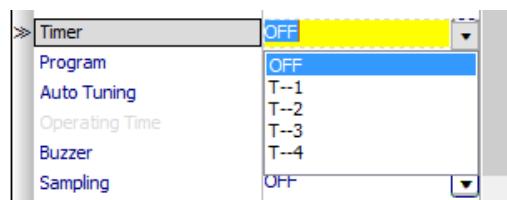
確認のみの項目と修正可能な項目があり、修正可能な項目はエディットタイプ、コンボボックスタイプとして表示されます。

(1) エディットタイプ



数字やテキストを入力することができます。

(2) コンボボックスタイプ



右側のコンボボタンをクリックすると、選択できる項目が表示されます。

2.5.6.1 DAQ リストのプロパティ

I/O リストで通信するため追加された項目を選択すると、プロパティで情報を確認することができます。



2.5.6.2 ランタイム画面のプロパティ

追加されたランタイム画面(データ: Grid、Multi Panel、Panel、Line Graph、Bar Graph)の名前及びアップデート間隔、その他の項目などを設定することができます。

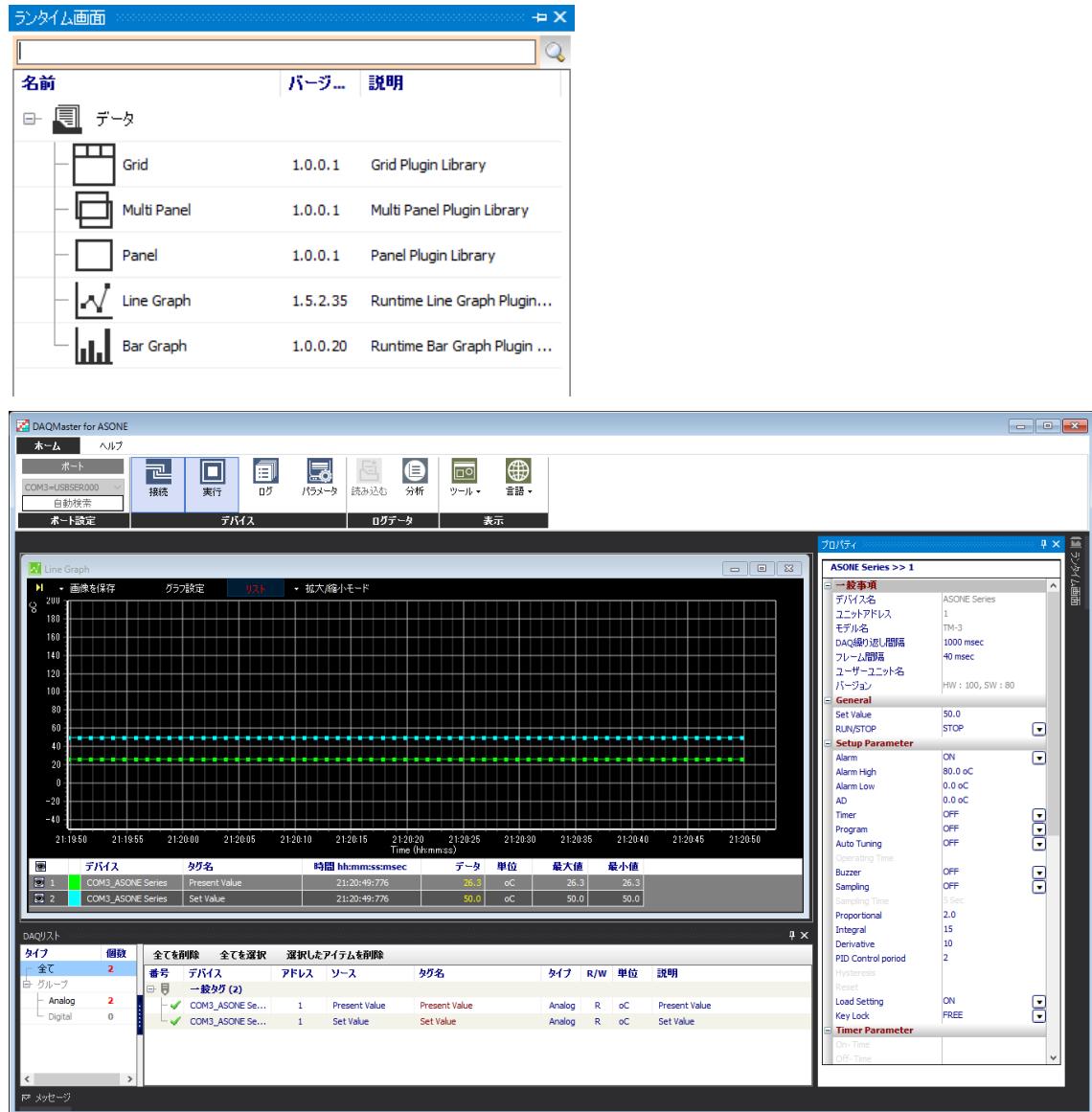
メイン 画面のランタイム画面でグリッドをクリックすると、プロパティの Run UI 項目のグリッド名を変更することができます。また、環境設定項目のアップデート間隔を変更できます。

(デフォルト: 1,000msec)



2.6 ランタイム画面ライブラリ

ランタイム画面で UI 項目をダブルクリックするとメイン画面に追加されます。

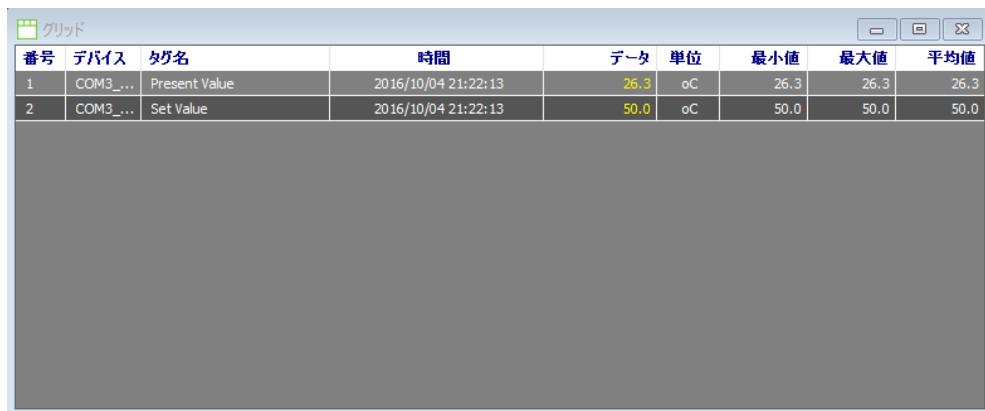


データのモニタリングをするためのランタイム画面リストです。

ランタイム画面はデータ: Grid、Multi Panel、Panel、Line Graph、Bar Graph をサポートし、複数の画面を同時にモニタリングすることができます。

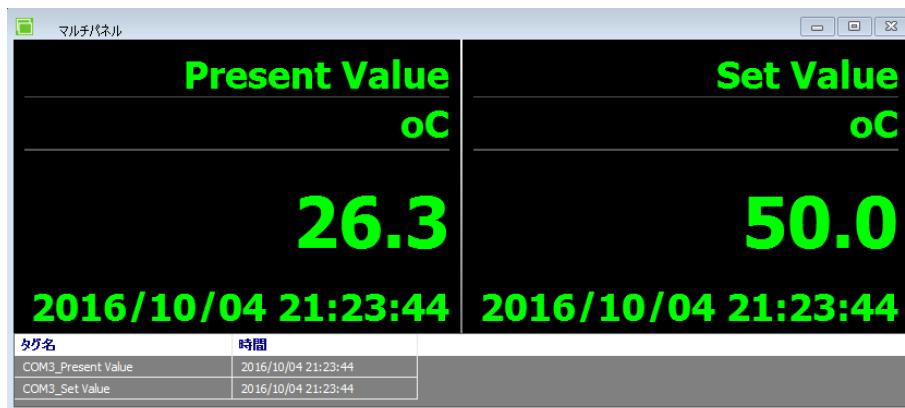
2.6.1 データ

(1) Grid

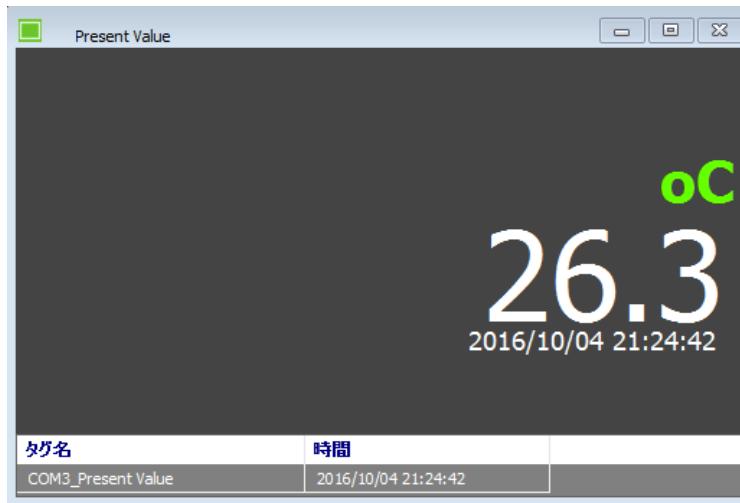


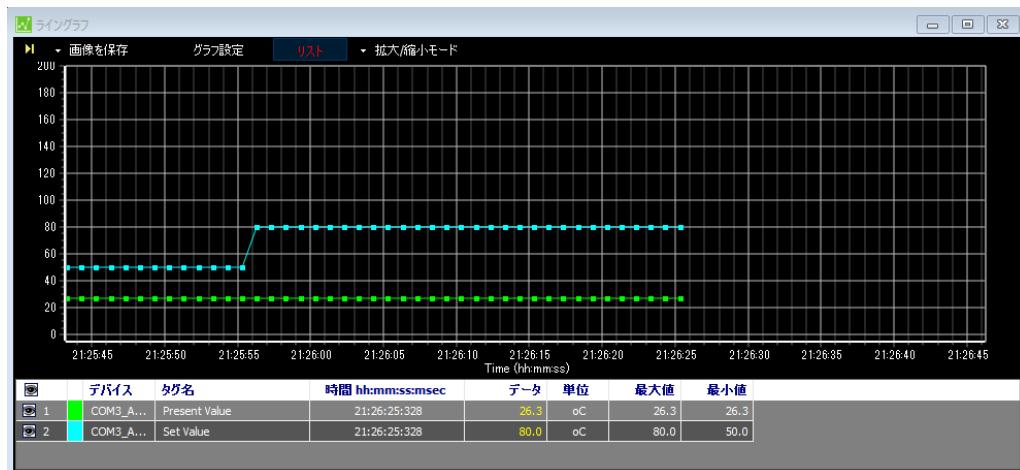
番号	デバイス	タグ名	時間	データ	単位	最小値	最大値	平均値
1	COM3_...	Present Value	2016/10/04 21:22:13	26.3	oC	26.3	26.3	26.3
2	COM3_...	Set Value	2016/10/04 21:22:13	50.0	oC	50.0	50.0	50.0

(2) Multi Panel



(3) Panel



(4) Line Graph**(5) Bar Graph**

3 スタート

基本作業手順は次のとおりです。

- 1st DAQMaster for AS ONE のメイン画面には基本ランタイム画面のライングラフに I/O ソースが追加されています。[ポート設定]で該当のポートを選択して下さい。
 - 2nd [デバイス]-[接続]を選択します。デバイスのパラメータを読み取り及び設定することができます。
 - 3rd [デバイス]-[実行]を選択します。データファイルをログすることができます。

3.1 DAQ リスト

DAQ リストには、I/O ソースが表示されます。

DAQ リストの I/O ソースをランタイム画面に追加するには、まず追加するソースを選択し、それをドラッグしてランタイム画面にドロップします。

選択されたプロパティをドラッグするためには、マウスのカーソルをテキスト部分に当たって下さい。

DAQ リストにてソースを選択すると、プロパティ画面で項目を確認/変更することができます。

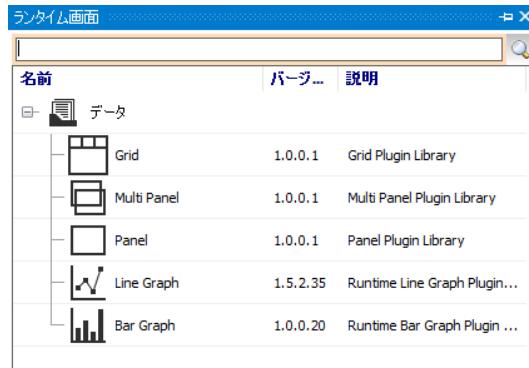
ASONE Series >> 1 >> Present Value	
一般事項	
デバイス	ASONE Series
アドレス	1
ソース	Present Value
タグ名	Present Value
小数点	0.0
単位	oC
説明	Present Value

- デバイス: デバイス名
 - アドレス: ユニットのアドレス
 - ソース: I/O ソース名
 - タグ名: 任意のタグ名に変更できます。
 - 小数点: データの小数点表示
 - 単位: データの単位表示
 - 説明: 説明を書き込みます。

3.2 DAQ リストからランタイム画面ライブラリに追加

データをモニタリングするための画面です。ランタイム画面のタイプはデータ: Grid、Multi Panel、Panel、Line Graph、Bar Graph をサポートします。使用するランタイム画面を検索して選択することができます。

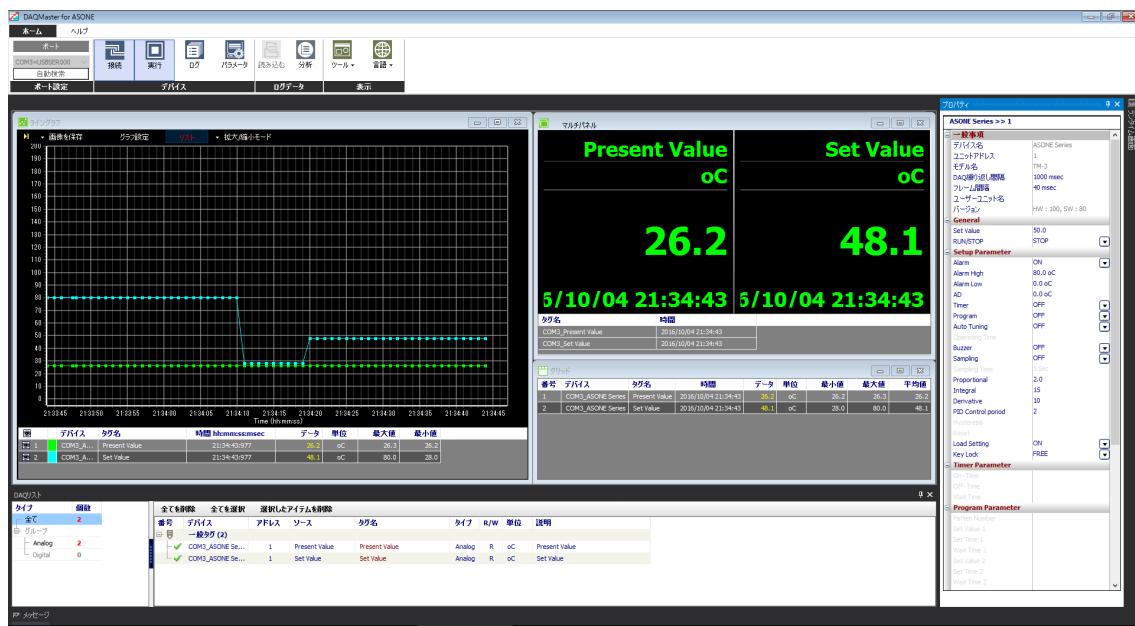
ユーザーの環境によりランタイム画面の設定及び追加することができます。(ランタイム画面ライブラリの Panel を追加する時にエラーが発生したら、Adobe Flash Player をインストールして下さい。)



ランタイム画面を追加するには、ランタイム画面ライブラリにて該当タイプをダブルクリックします。

次はランタイム画面ライブラリを適用した画面の例です。

(Grid、Multi Panel、Line Graph が適用されました。)



3.2.1 データ

3.2.1.1 Grid

モニタリングする複数の I/O ソースのデータをテキストで表示します。
「実行」状態でデータがアップデートされるたびに、時間コラムの色が反転します。



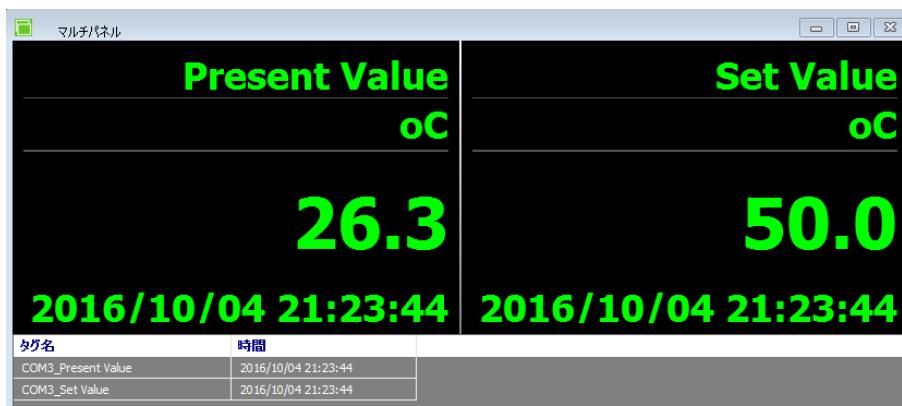
番号	デバイス	タグ名	時間	データ	単位	最小値	最大値	平均値
1	COM3_ASOne Series	Present Value	2016/10/04 21:37:06	26.2	oC	26.2	26.3	26.2
2	COM3_ASOne Series	Set Value	2016/10/04 21:37:06	48.1	oC	28.0	80.0	48.1

下図のように、ポップアップメニューにて「データ更新の表示」をチェックしなければ、アップデートしても色は反転しません。コラムのうち「最小値」、「最大値」のあるポップアップメニューにて「最小/最大値の初期化」を選択すると、その時点から最小/最大値が表記されます。



3.2.1.2 Multi panel

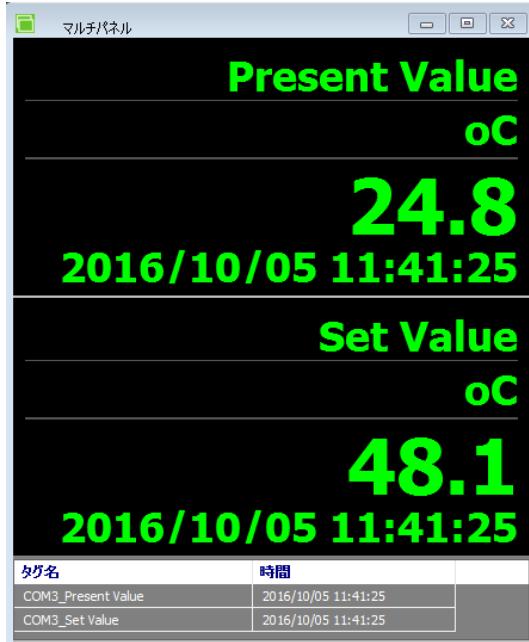
I/O ソースのデータを Flash 形式で表示します。Multi Panel Viewer は複数の I/O ソースを表示することができます。



メイン画面にて「ランタイム画面」の下にある「Multi Panel」項目を選択すると、プロパティ画面で整列モード、カラー、アップデート間隔などを変更することができます。



- 整列モード: 複数の I/O ソースの整列方法を設定します。水平整列、垂直整列、水平グリッド整列、垂直グリッド整列をサポートします。下図は垂直整列に設定した画面です。



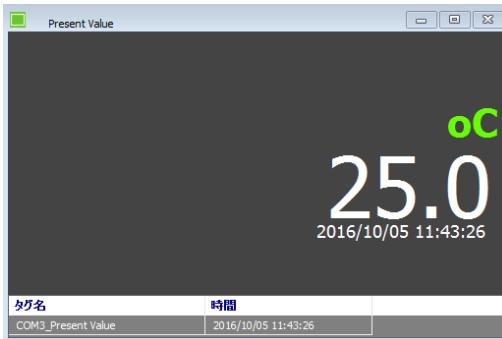
- ユーザーアラーム設定: アラームが発生する条件をタグごとに設定することができます。また、アラームサウンドを指定して使用できます。



※その他の設定項目はパネルグラフ設定と同様です。「3.2.1.3 Panel」をご参考下さい。

3.2.1.3 Panel

I/O ソースのデータを Flash 形式で表示します。1 つのパネルビューアには、1 つの I/O ソースしか表示されません。

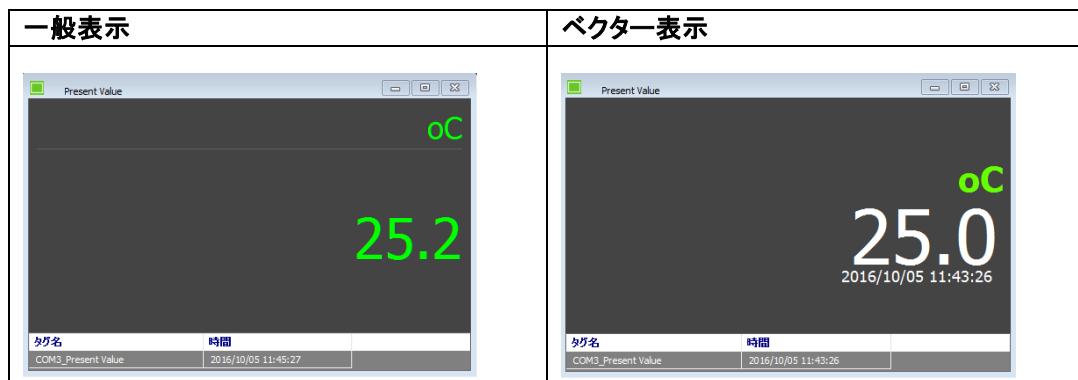


メイン画面にて「ランタイム画面」の下にある「Panel」項目を選択すると、プロパティ画面でカラー、アップデータ間隔などを変更することができます。



プロパティ画面の環境設定項目の内容は次のとおりです。

- 表示モード: 一般表示とベクター表示の中から選択します。



- アップデート間隔: パネルのアップデート周期です。
- 入力ソースを表示: I/O ソースリストの表示／非表示設定です。
- 底色: パネルの背景色です。
- アラームカラー: アラームが発生したときに反転する色です。

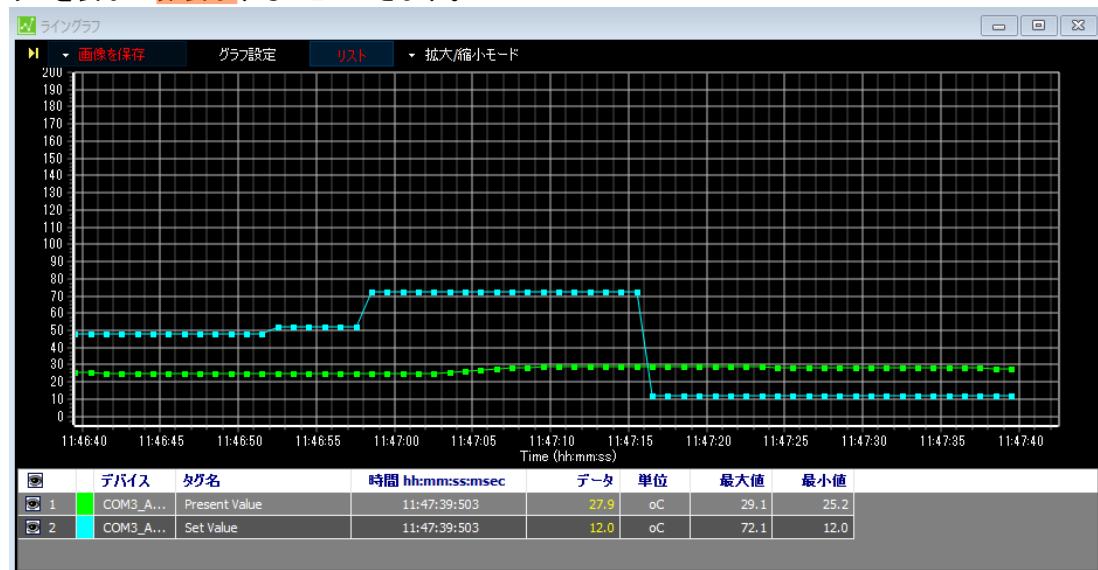
プロパティ環境設定の一般表示フォント設定は次のとおりです。

- 単位フォント: 一般表示に表示される単位のフォント設定です。
- 表示値フォント: 一般表示に表示される値のフォント設定です。

3.2.1.4 Line Graph

モニタリングする複数の I/O ソースデータをライントグラフで表示します。

ライントグラフの下には、追加された I/O ソースリストが表示されます。「」項目のチェックボックスで、グラフを表示／非表示することができます。



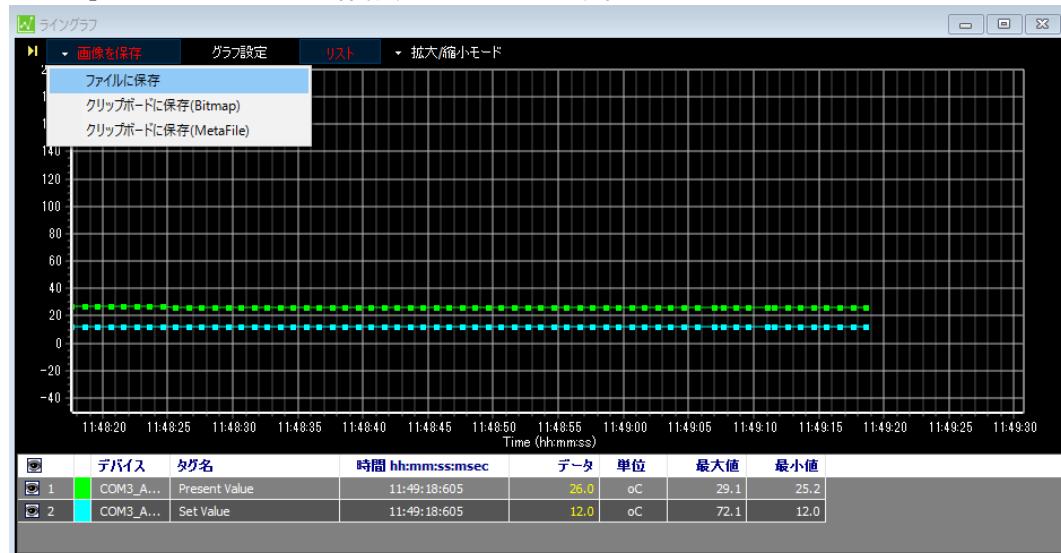
デバイス前の色をダブルクリックすると、I/O リストごとにグラフ色を変えることができます。



(1) 画像を保存

現在のグラフ画面を画像として保存する機能です。

「画像を保存」ボタンをクリックすると、画像保存のダイアログボックスが表示され、「*.bmp」、「*.wmf」のファイル形式として保存することができます。



- ファイルに保存: Bitmap(*.bmp)または Windows metafile(*.wmf)として保存します。
- クリップボードに保存(Bitmap): 他のアプリケーションですぐに使用できるようクリップボードに Bitmap ファイルとして保存します。
- クリップボードに保存(MetaFile): 他のアプリケーションですぐに使用できるようクリップボードに MetaFile として保存します。

(2) グラフ設定

- グラフ設定のタブ

グラフの全般的な環境を設定します。



番号	項目	内容
1	時間軸設定	時間、分、秒の単位設定と値を設定します。
2	時間形式	時間軸(X軸)に対する時間の表示方法を設定します。
3	ポイント表示	データのポイントの表示／非表示を設定します。
4	ポイントタイプ	ポイントタイプを設定します。 グラフに表示されるポイントの形態を選択します。 (Square / Circle / Triangle / Down Triangle / Diamond / Noting / Left Triangle / Right Triangle)
5	線の太さ	グラフ線の太さを設定します。
6	ポイント	ポイントの大きさを設定します。
7	データ表示	データ値の表示有無を設定します。
8	補助線	補助線の上限線/基準線/下限線の表示有無 Y 値、色、太さを設定します。

- **Y 軸設定のタブ**
各タグの Y 軸方向と範囲を設定することができます。

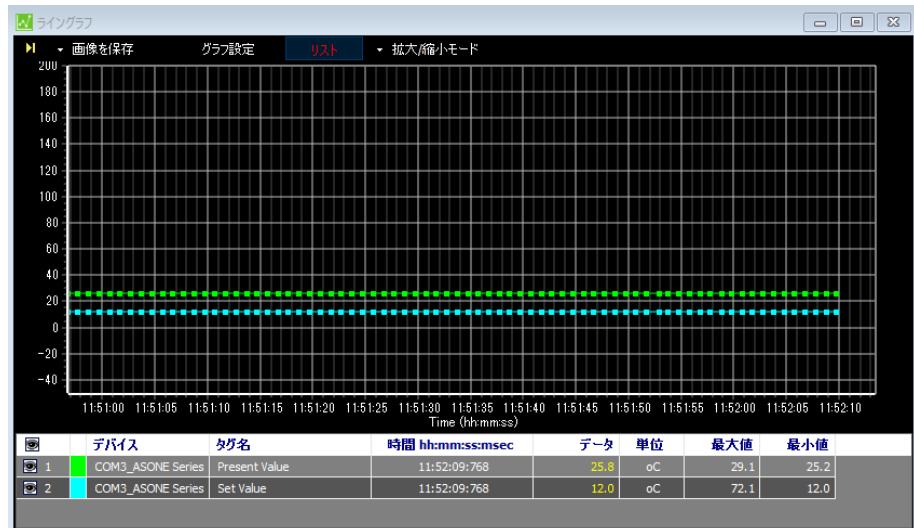


番号	項目	内容
1	左/右 Y 軸設定	選択したタグの左/右 Y 軸の自動スケール、最初/最大範囲、単位を設定します。また、反転を設定します。
2	タグリスト	グラフに追加したタグリストが表示されます。Y 軸を表示するタグを選択します。
3	左/右 Y 軸	選択したタグの Y 軸の種類(左/右)を設定します。

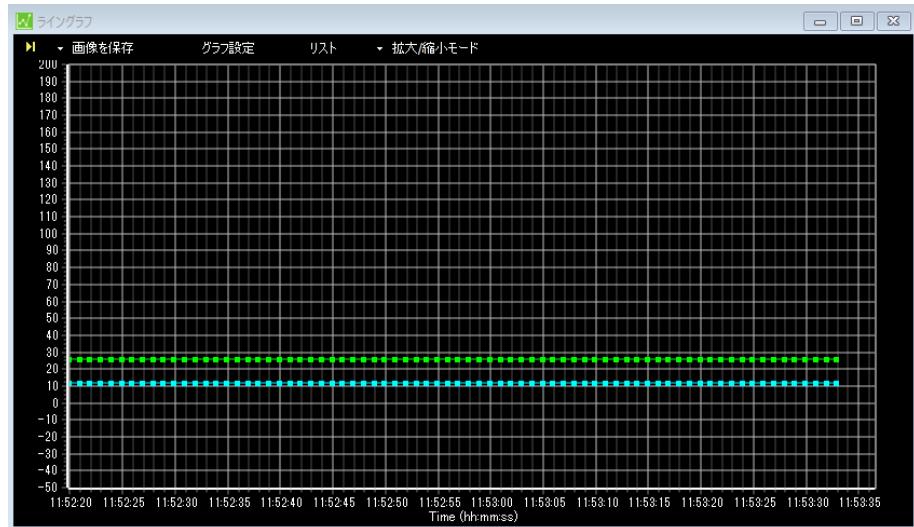
(3) リスト

グラフの下にある I/O ソースリスト項目表示の有無を設定します。
リストボタンをクリックすると ON/OFF 状態が切り替わります。

- リスト ON

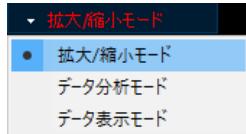


- リスト OFF



(4) 拡大/縮小モード

グラフを拡大/縮小する設定です。



- 拡大/縮小モード

① 拡大



グラフ上でマウスの左ボタンを押したまま、右下へドラッグすれば、マウスで指定した部分が拡大されます。

② 縮小



グラフ上でマウスの左ボタンを押したまま、左上へドラッグすれば、基本スケールに戻ります。

③ X/Y 軸の変更



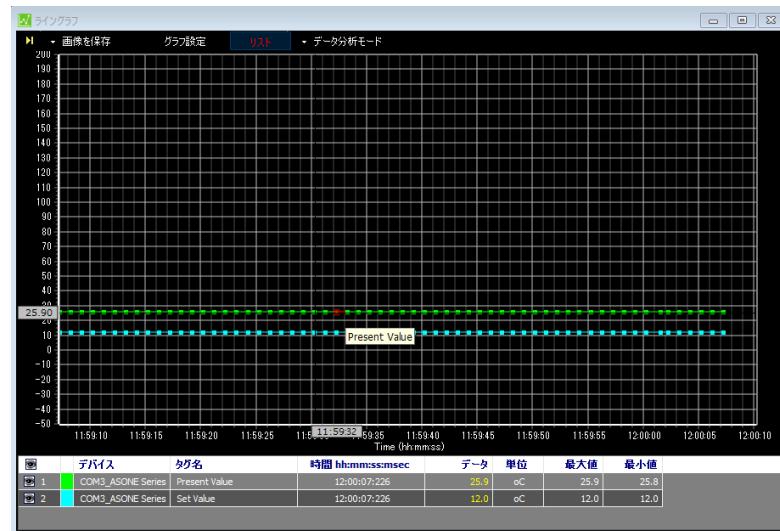
グラフ上でマウスの右ボタンを押したままドラッグすれば、グラフの X、Y 軸の位置が変更されます。グラフが拡大されたり X、Y 軸の位置が変更された状態では、データのアップデート時に、X 軸が自動的に移動しません。

グラフ分析モードとして見なし、変更したグラフスケール及び軸の位置が維持されます。

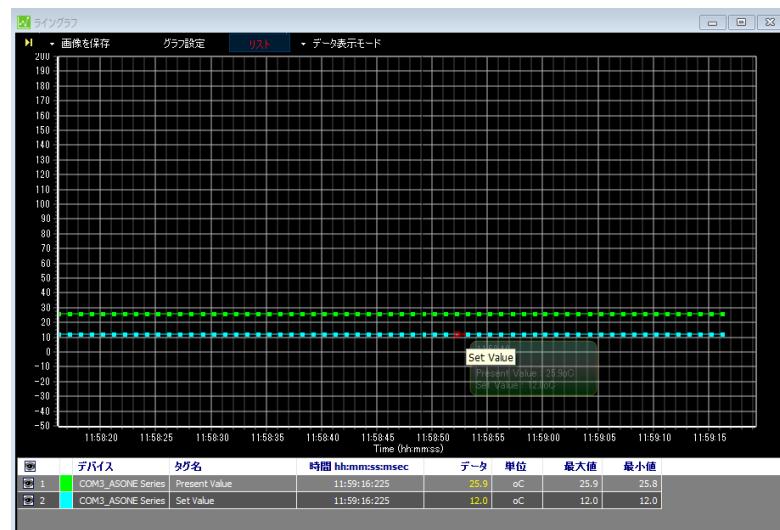
④ マウスホイールの機能

動作	機能
Ctrl + マウスホイール Up	X 軸が拡大
Ctrl + マウスホイール Down	X 軸が縮小
Shift + マウスホイール Up	Y 軸が拡大
Shift + マウスホイール Down	Y 軸が縮小

- データ分析モード
グラフ上でマウスが位置する支点のX軸(時間)の値とY軸の値を表示します。



- データ表示モード
マウスに位置する全てのデータ値を、マウスの位置で表示します。



3.2.1.5 Bar Graph

モニタリングする複数の I/O ソースデータがバーグラフで表示されます。
 バーグラフの下には、追加された I/O ソースリストが表示されます。
 「」項目のチェックボックスで、グラフを表示／非表示することができます。



デバイス前の色をダブルクリックすると、I/O ソースごとにグラフ色を変えることができます。



(1) 画像を保存

現在のグラフ画面を画像として保存する機能です。

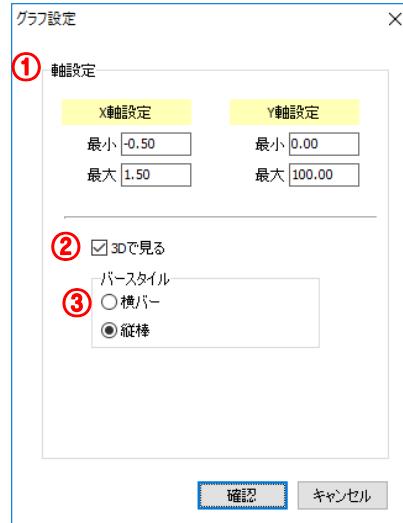
「画像を保存」ボタンをクリックすると、画像保存のダイアログボックスが実行され、「*.bmp」、「*.wmf」のファイル形式として保存できます。



- ファイルに保存: Bitmap (*.bmp) または Windows metafile (*.wmf) として保存します。
- クリップボードに保存(Bitmap): 他のアプリケーションですぐに使用できるようクリップボードに Bitmap ファイルとして保存します。
- クリップボードに保存(MetaFile): 他のアプリケーションですぐに使用できるようクリップボードに MetaFile として保存します。

(2) グラフ設定

グラフの全般的な環境を設定します。



番号	項目	内容
1	軸設定	X、Y 軸範囲の最小値、最大値を設定します。
2	3D で見る	バーの表示スタイルを設定します。
3	バースタイル	バーの横、縦スタイルを設定します。

(3) リスト

グラフの下にあるリスト項目表示の有無を設定します。
リストボタンをクリックすると ON/OFF 状態が切り替わります。

- リスト ON



- リスト OFF

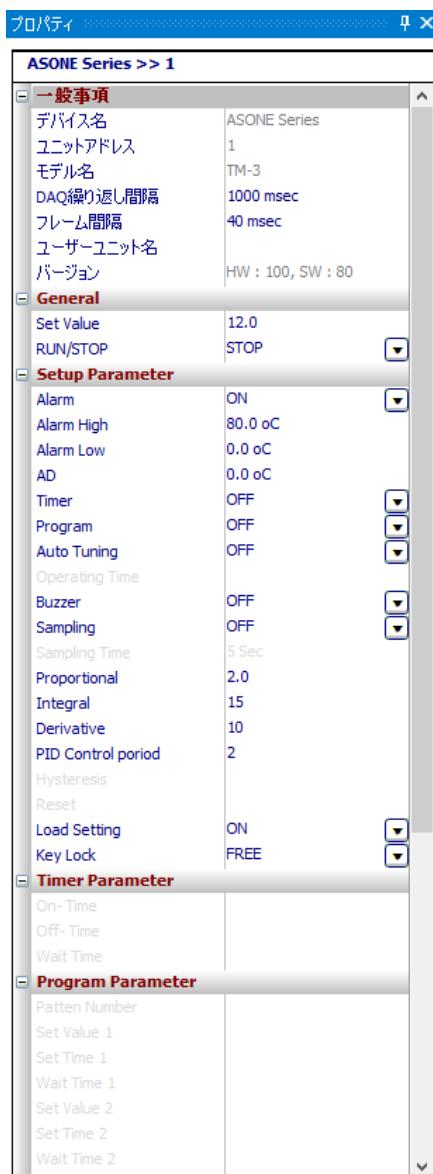


3.3 接続

「ポート設定」で該当のポートを選択し、「デバイス」の「接続」を選択するか、「自動検索」をクリックすると接続されます。



「デバイス」の「パラメータ」ボタンをクリックすると、プロパティ画面でパラメータを確認したり、変更することができます。



パラメータを変更せずモニタリングを行うには、「デバイス」の「実行」ボタンをクリックして下さい。

プロパティにてパラメータ値を変更すると、デバイスとの通信により設定値が適用されます。

パラメータ値の変更要請中は、全てのプロパティ値が灰色で表示(修正不可状態)され、結果値を受けると元に戻ります。

エディットタイプ(⇒デバイス名 ASONE Series)は値を変更してエンターキーを押せば適用されます。コンボボックスタイプ(⇒Timer OFF)はマウスでリストアイテムを選択するか、または Alt + 方向キーでアイテムを選択してエンターキーを押せば適用されます。
(['2.5.6 プロパティをご参照下さい。\)](#)

パラメータの中、単位に関連する項目が変更されると、関連するパラメータの全ての単位値が変更されます。また、範囲に関連する項目が変更されると、全てのパラメータに適用されます。

値の範囲を持つプロパティアイテムは、範囲を外れる値を入力すると無視され、元の値に戻ります。

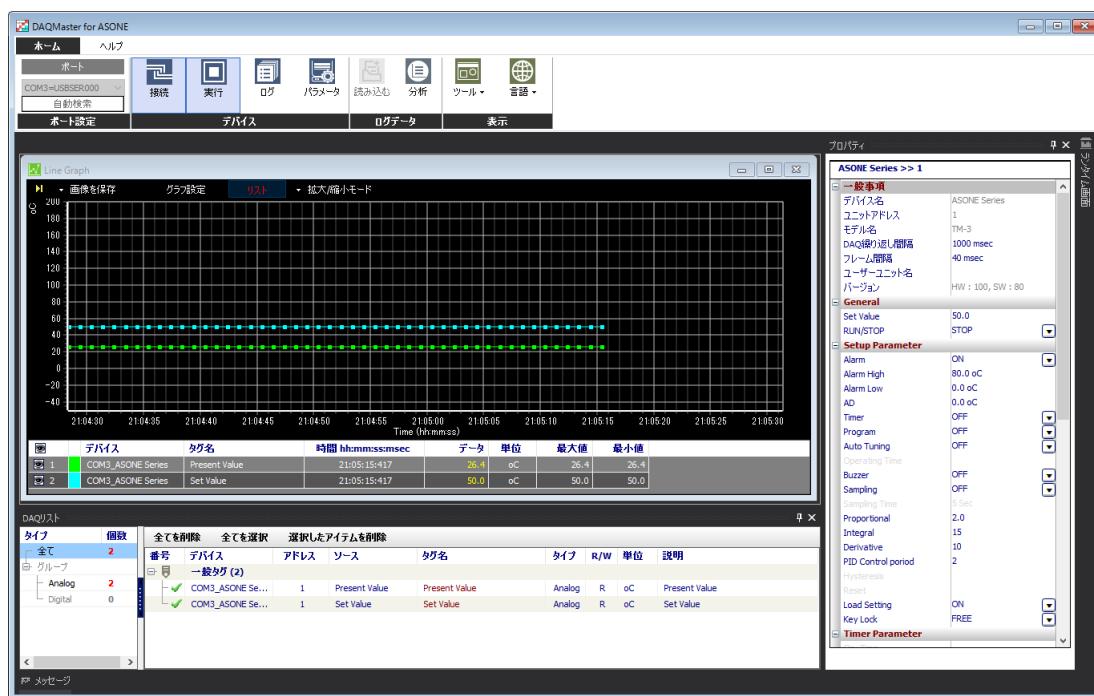
入力フォーマットが決まったパラメータは、入力する必要がある形式でのみ入力が可能です。

非活性状態のパラメータは値が表示されず、灰色でアイテム名が表示されます。読み取りモードのパラメータは、名前と値が灰色で表示されます。

パラメータの言語は、インストール時に選択した言語とは関係なく、変更されません。

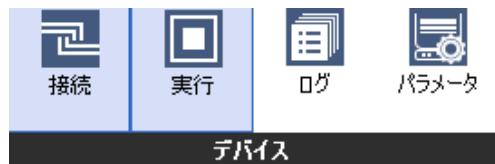
3.4 実行

実行中の画面は下図のとおりです。



3.5 ログ

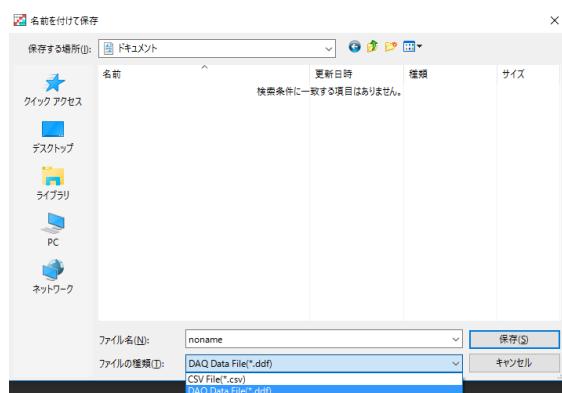
「実行」された状態では、「ログ」が活性化されます。



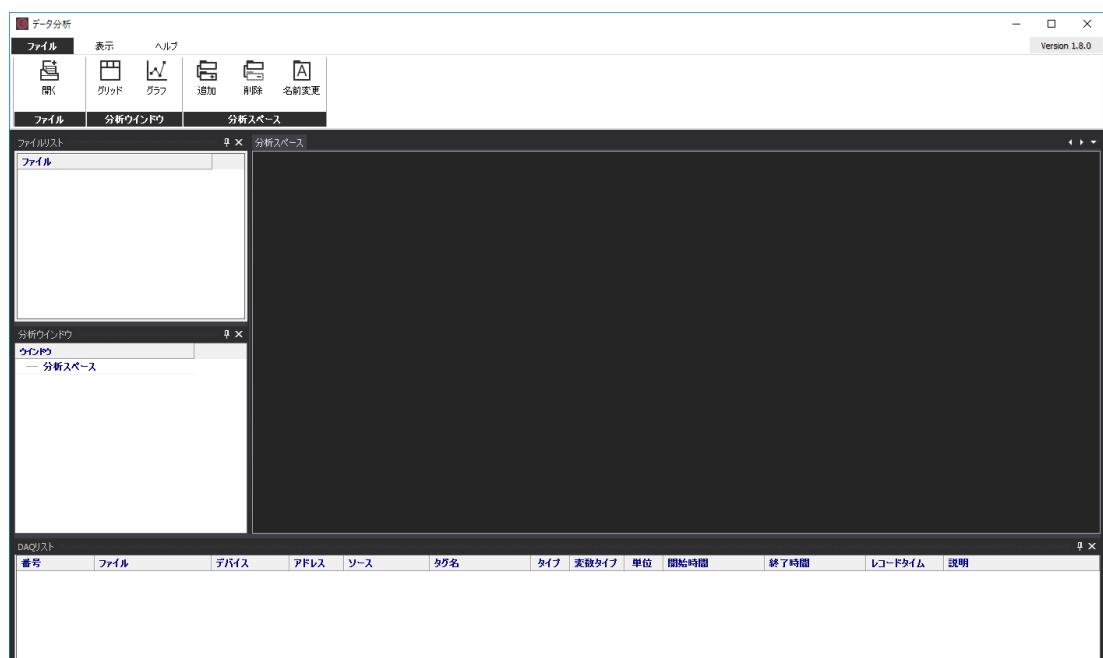
ログを開始すると、プログラムの右上にログの経過時間が表示されます。

選択されている「ログ」を再度クリックすると、ログが停止され、下図のように、ファイルを保存するための画面が開きます。

ファイル保存形式は DAQ Data File (*.ddf) と CSV File (*.csv) です。



DAQ Data File (*.ddf) は、DAQMaster for AS ONE Program の「ログデータ > 分析」で分析することができます。



3.6 ログの読み込み

デバイスに保存されたログデータを読み込んで、PC に保存します。

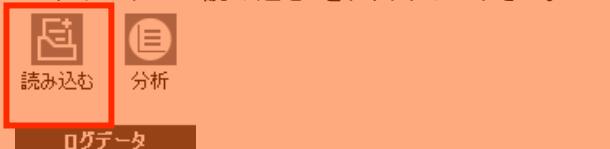
ログを保存する方法は次のとおりです。



1st 「ポート」より接続するポートを選択し、「デバイス」の「接続」をクリックして下さい。

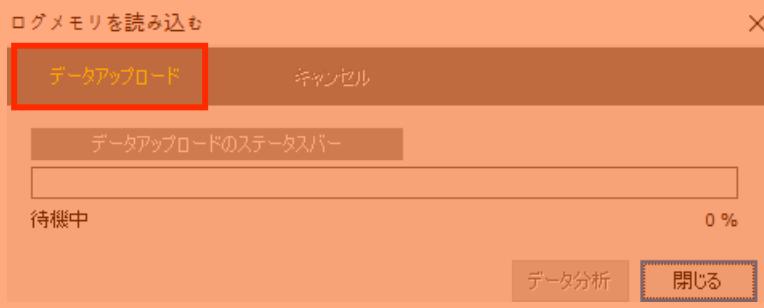


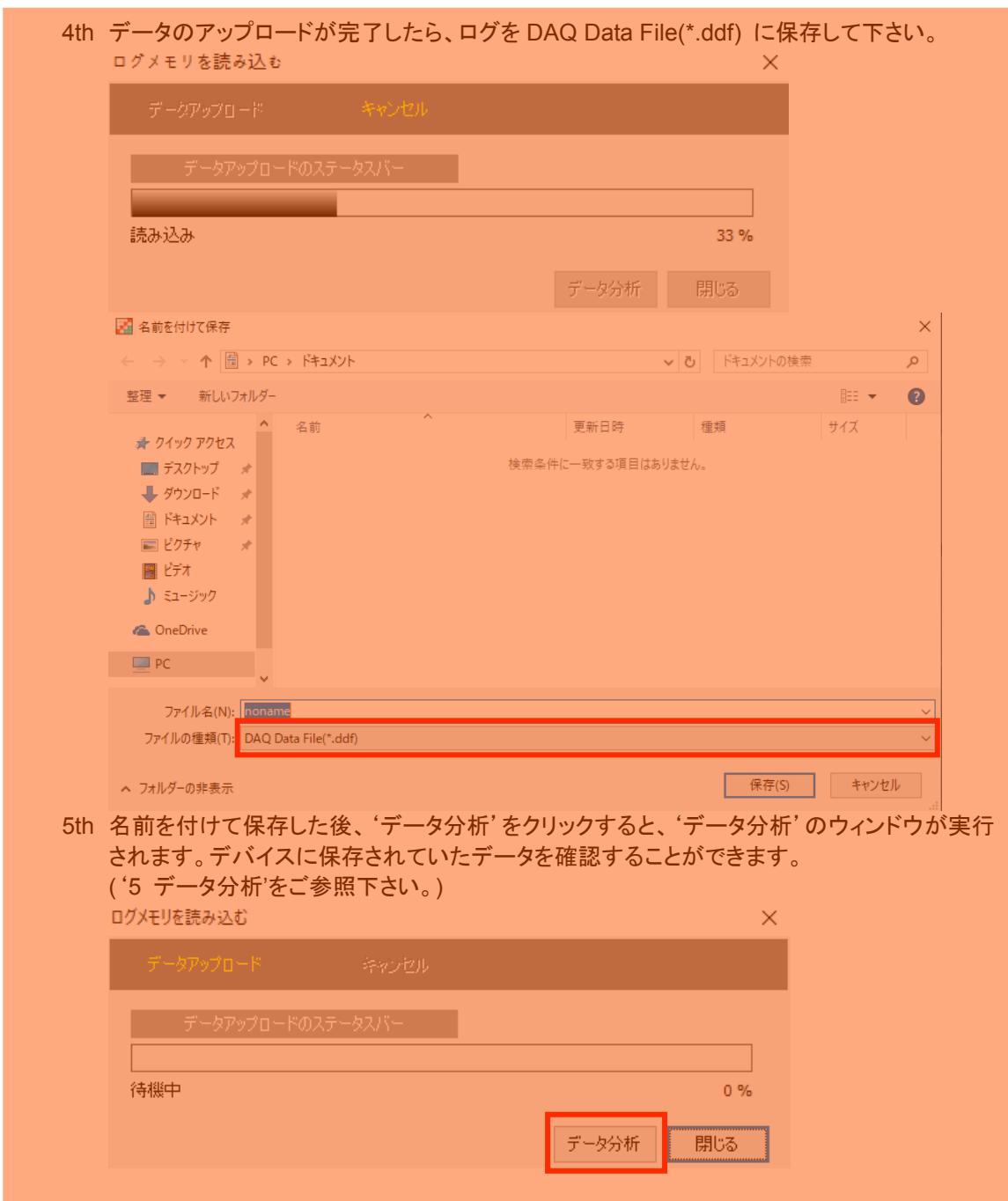
2nd 「ログデータ」の「読み込む」をクリックして下さい。



3rd 「ログメモリを読み込む」のウィンドウが出ると、「データアップロード」をクリックして下さい。

デバイスに保存されたデータを DAQMaster にアップロードします。





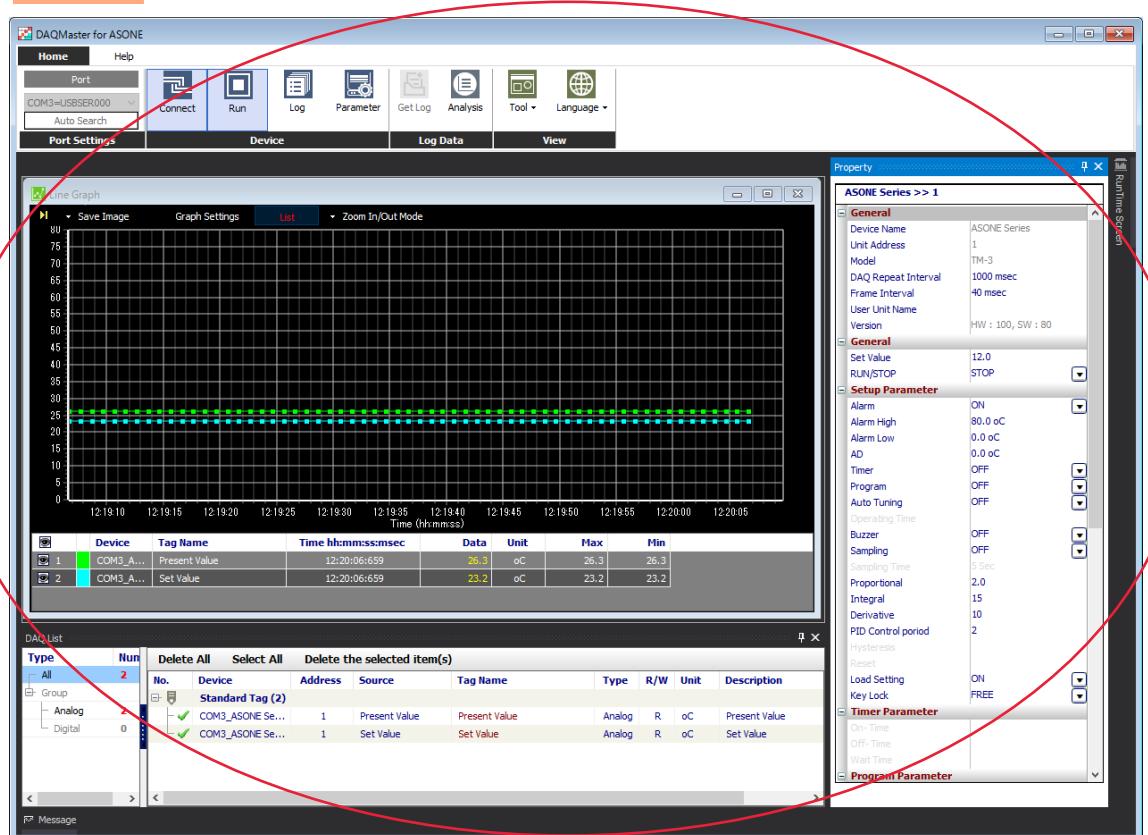
4 プログラムの言語変更

4.1 言語を変更

プログラムの言語を変更します。プログラムのインストール時に選択した言語に設定されています。



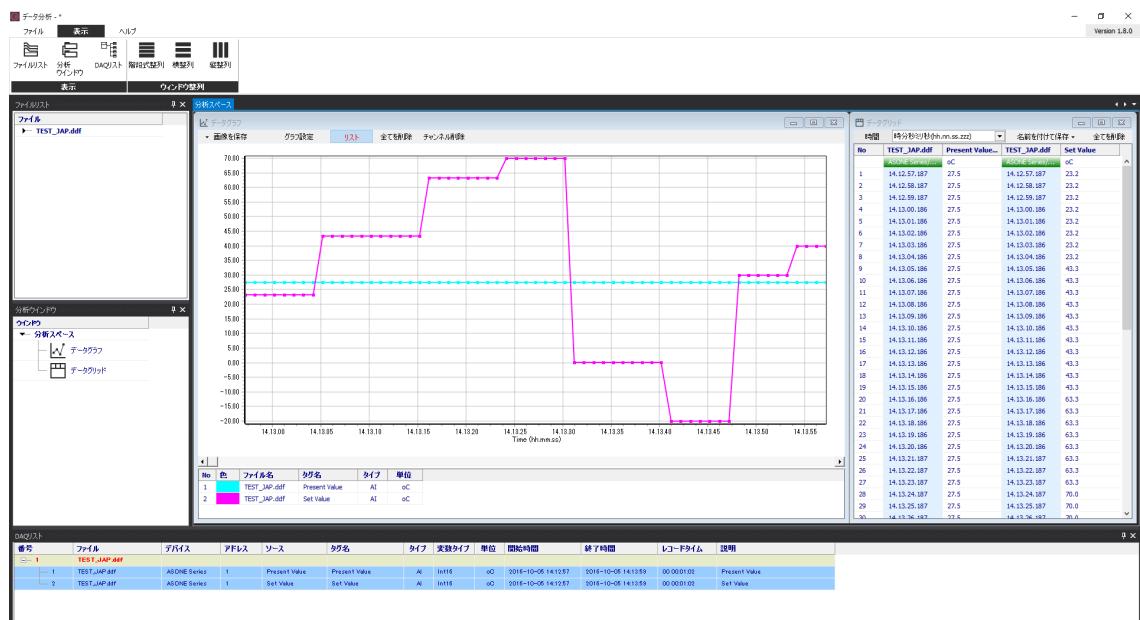
メインメニューで「表示 > 言語 > English」を選択すれば、すぐに適用され、下図のようにプログラムの言語が英語に変わります。



5 データ分析

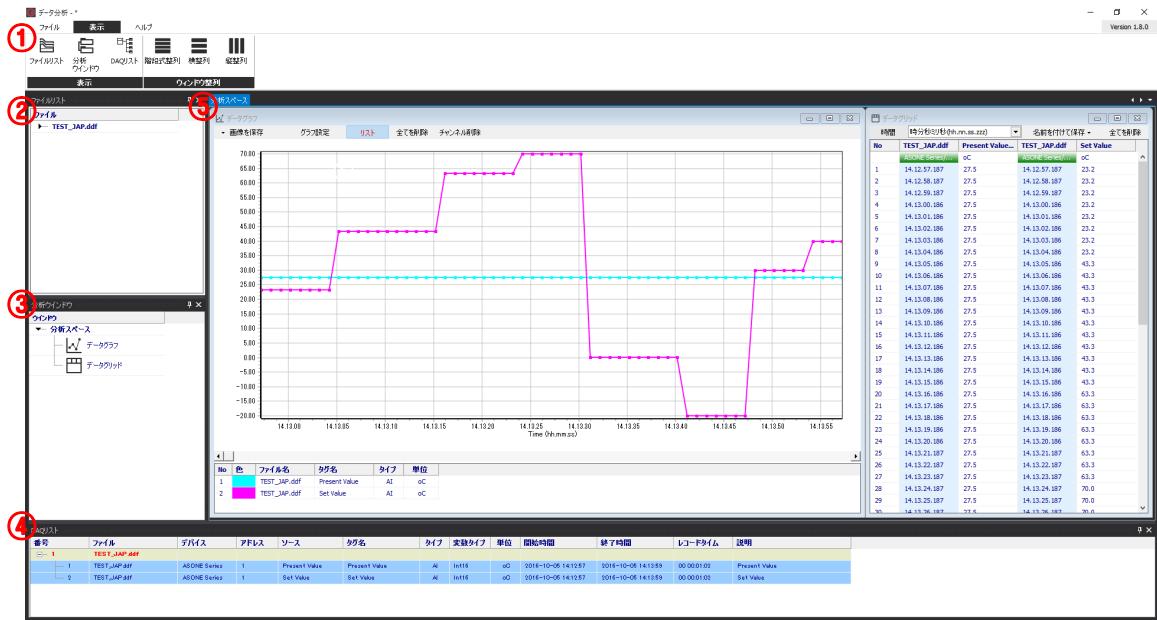
モニタリングしたデータファイル(*.ddf)を、このプログラムからグリッド、グラフで分析します。
また、他のファイルに保存することもできます。

下図はデータ分析の実行画面です。



5.1 画面の構成

DAQMaster for AS ONE のデータ分析は下図のような画面となっており、各項目の基本内容は次のとおりです。



番号	項目	内容
1	メニュー	項目ごとにメニューが構成されています。各メニューを選択すると、サブメニューが表示されます。
2	ファイルリスト	分析するファイルのリストが表示されます。
3	分析ウィンドウ	分析スペースの項目が表示されます。
4	DAQリスト	データファイルに保存されている I/O ソースリストが表示されます。
5	分析スペース	データグリッド、データグラフが表示される空間です。

5.1.1 メニュー

5.1.1.1 ファイル



(1) ファイル

開く: DAQMaster for AS ONE データファイル (*.ddf) を読み込みます。

(2) 分析ウィンドウ

分析スペースに表示される項目を追加することができます。

(3) 分析スペース

分析スペースにタブの追加や削除、名前変更が行えます。

5.1.1.2 表示



(1) 表示

データ分析にファイルリスト、分析ウィンドウ、DAQ リストフォームを開きます。

(2) ウィンドウ整列

分析ウィンドウにグリッド、グラフ画面が開いている時に、階段式整列、横整列、縦整列で設定します。

5.1.1.3 ヘルプ



DAQMaster for AS ONE データ分析プログラムの情報です。

5.1.2 ファイルリスト

読み込んだデータファイル (*.ddf) のリストが表示されます。



5.1.3 分析ウィンドウ

分析スペースに表示される項目が表示されます。



5.1.4 DAQ リスト

DAQ リストには、データファイルに保存されている I/O ソースリストが表示されます。

I/O ソースは分析画面で分析することができます。

DAQリスト												
番号	ファイル	デバイス	ソース	タグ名	タイプ	変数タイプ	単位	開始時間	終了時間	レコードタイム	説明	
1	TEST_JAP.ddf	ASONE Series	1	Present Value	Present Value	AI	Int16	oO	2016-10-05 14:12:57	2016-10-05 14:13:59	00:00:01:02	Present Value
	TEST_JAP.ddf	ASONE Series	1	Set Value	Set Value	AI	Int16	oO	2016-10-05 14:12:57	2016-10-05 14:13:59	00:00:01:02	Set Value

5.1.5 分析スペース

(1) データグリッド

I/O データがデータグリッドで分析されます。

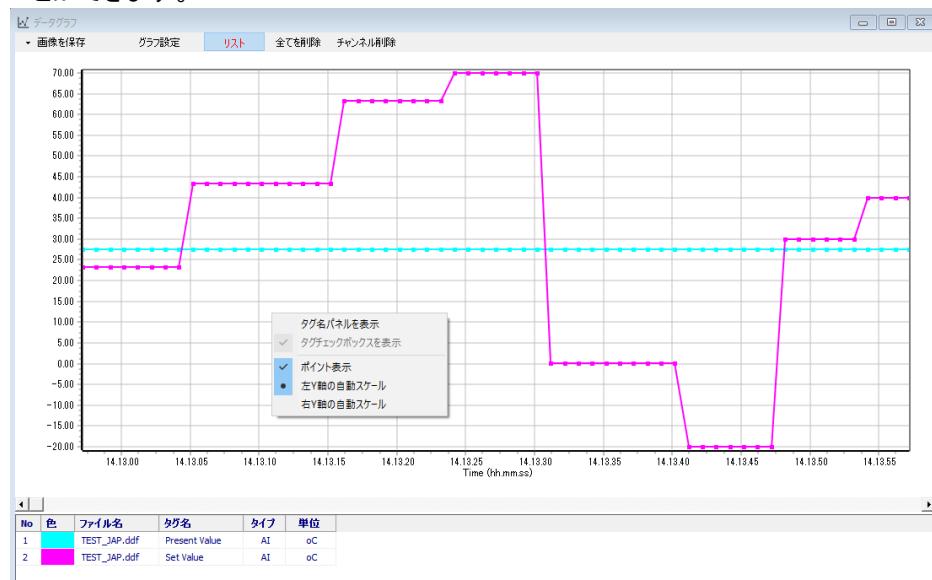
DAQ リストにて分析する I/O ソースをドラッグしグリッド画面にドロップすると追加されます。

No	TEST_JAP.ddf	Present Value...	TEST_JAP.ddf	Set Value
1	ASONE Series/...	oC	ASONE Series/...	oC
2	14.12.57.187	27.5	14.12.57.187	23.2
3	14.12.58.187	27.5	14.12.58.187	23.2
4	14.12.59.187	27.5	14.12.59.187	23.2
5	14.13.00.186	27.5	14.13.00.186	23.2
6	14.13.01.186	27.5	14.13.01.186	23.2
7	14.13.02.186	27.5	14.13.02.186	23.2
8	14.13.03.186	27.5	14.13.03.186	23.2
9	14.13.04.186	27.5	14.13.04.186	23.2
10	14.13.05.186	27.5	14.13.05.186	43.3
11	14.13.06.186	27.5	14.13.06.186	43.3
12	14.13.07.186	27.5	14.13.07.186	43.3
13	14.13.08.186	27.5	14.13.08.186	43.3
14	14.13.09.186	27.5	14.13.09.186	43.3
15	14.13.10.186	27.5	14.13.10.186	43.3
16	14.13.11.186	27.5	14.13.11.186	43.3
17	14.13.12.186	27.5	14.13.12.186	43.3
18	14.13.13.186	27.5	14.13.13.186	43.3
	14.13.14.186	27.5	14.13.14.186	43.3

(2) データグラフ

I/O データがデータグラフで分析されます。

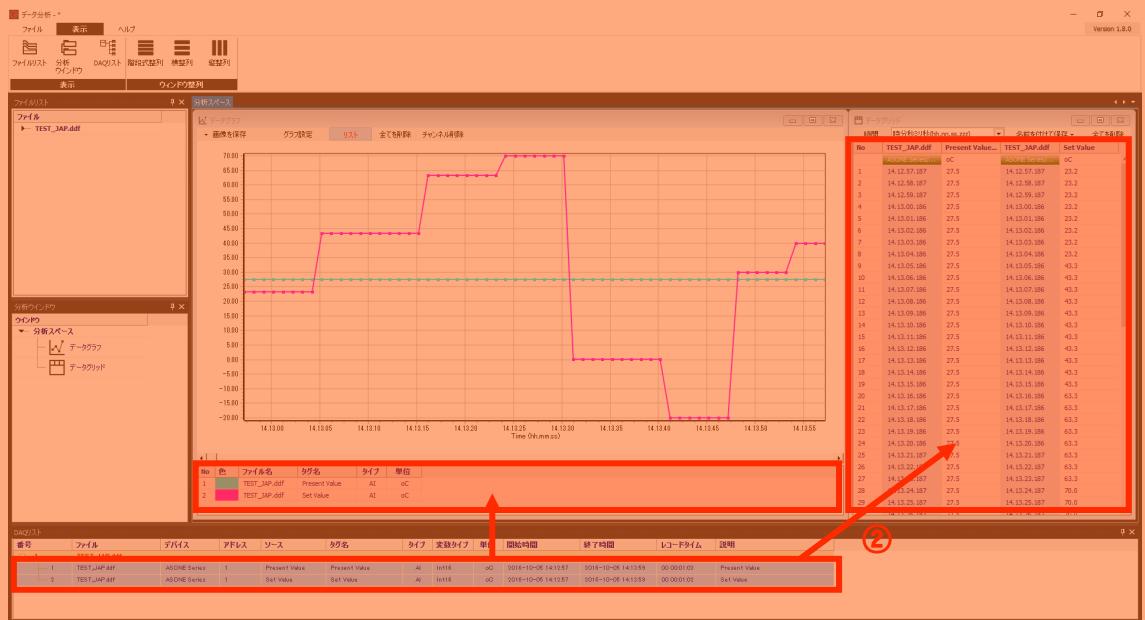
DAQ リストにて分析する I/O ソースをドラッグしデータグラフ画面にドロップすると追加されます。マウス右クリックすると、グラフ表示(タグ、ポイント表示、Y 軸の自動スケール)に対して設定することができます。





Note

I/O ソースをグリッド画面やデータグラフ画面に追加する方法は次のとおりです。



1st DAQ リストから追加する I/O ソースをドラッグして下さい。

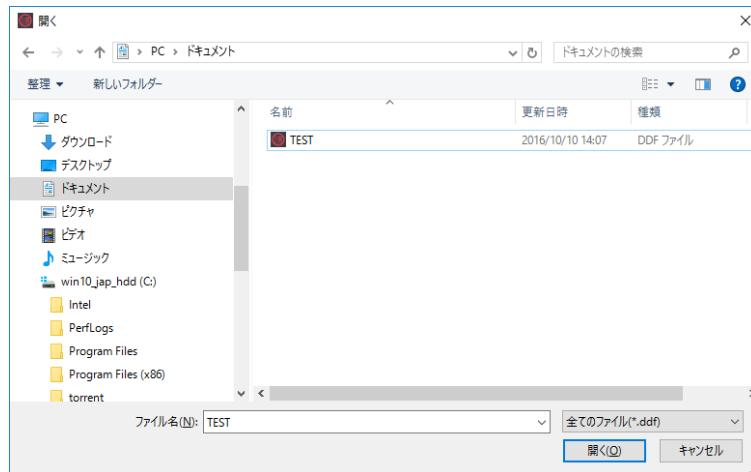
2nd マウスの左ボタンを押したまま、グリッド画面またはデータグラフ画面にドロップして下さい。

3rd ドロップすると、選択した I/O ソースが画面に追加されます。

5.2 データ分析

5.2.1 データを読み込む

データファイルを読み込むには、「ファイル > ファイル > 開く」を実行し、読み込むファイルを開きます。

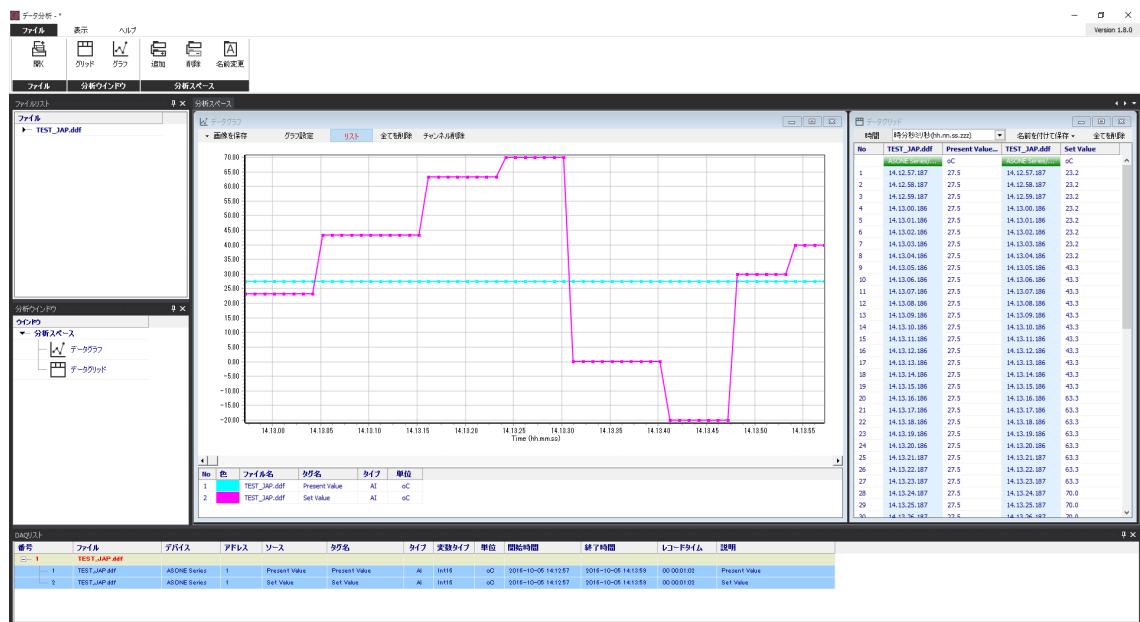


5.2.2 分析画面を追加

DAQ リストに該当ファイルの I/O ソースリストが表示されます。

「ファイル > 分析ウィンドウ」で分析スペースに追加するグリッド、グラフを選択します。

DAQ リスト画面で I/O ソースを選択し、グリッド、グラフにドラッグして追加します。



データグリッドのダイアログボックスでは、名前を付けてファイルを保存することができます。保存形式は*.txt、*.csv、*.html、*.rtfに対応します。

No	TEST_JAP.ddf	Present Value...	名前を付けて保存	全てを削除
1	ASONE Series/...	oC	*.txt	
2	14.12.57.187	27.5	*.csv	
3	14.12.58.187	27.5	*.html	
4	14.12.59.187	27.5	*.rtf	
5	14.13.00.186	27.5		
6	14.13.01.186	27.5		
7	14.13.02.186	27.5		
8	14.13.03.186	27.5		
9	14.13.04.186	27.5		
10	14.13.05.186	27.5		
11	14.13.06.186	27.5		
12	14.13.07.186	27.5		
13	14.13.08.186	27.5		
14	14.13.09.186	27.5		
15	14.13.10.186	27.5		
16	14.13.11.186	27.5		
17	14.13.12.186	27.5		
18	14.13.13.186	27.5		
19	14.13.14.186	27.5		
20	14.13.15.186	27.5		
	14.13.16.186	27.5		
	14.13.17.186	63.3		

データグラフ画面でマウスホイールにより拡大、縮小して分析することができます。



データグラフ設定にて時間軸設定、時間形式、グラフの線の太さ、補助線などを設定することができます。

グラフ設定

グラフ設定 | Y軸設定

軸設定

時間軸設定

時間: 0 分: 1 秒: 0

時間形式: hh.nn.ss 時分(hh.nn)

ポイント表示

線幅: 2 ポイント: 2

補助線

Y値 色 厚さ

上限線: 0.00 2

基準線: 0.00 2

下限線: 0.00 2

タグ名/パネルを表示

タグチェックボックスを表示

確認 キャンセル

グラフ設定

グラフ設定 | Y軸設定

左Y軸 最小: -50.00 単位: Inverted

右Y軸 最小: -50.00 単位: Inverted

No	タグ名	タイプ	軸
1	Present Value	AI	左Y軸
2	Set Value	AI	左Y軸

左Y軸 右Y軸

確認 キャンセル



Distributor

アズワン株式会社

■商品についてのお問い合わせは

カスタマー相談センター

TEL 0120-700-875

FAX 0120-700-763

問い合わせ
専用URL <https://help.as-1.co.jp/q>

■修理についてのお問い合わせは

修理窓口

TEL 0120-788-535

FAX 0120-788-763

問い合わせ
専用E-mail repair@so.as-1.co.jp

受付時間：午前9時～12時、午後1時～5時30分
土・日・祝日及び弊社休業日はご利用できません。